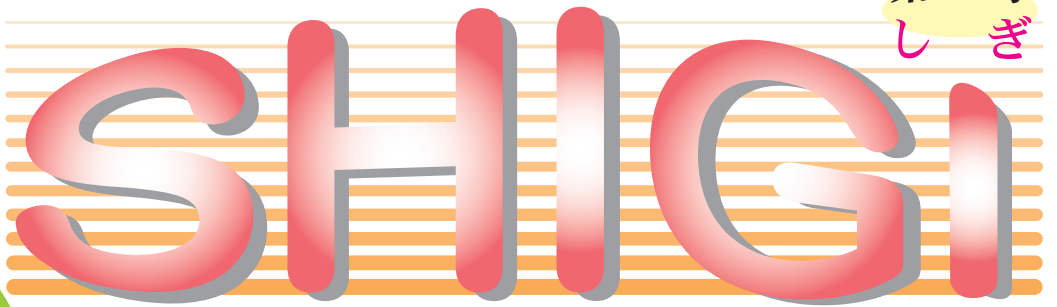




koseikai



編集発行人／医療法人厚生会 奈良厚生会病院

〒639-1039 奈良県大和郡山市椎木町769-3 TEL.0743-56-5678

奈良厚生会病院ウェブサイト URL <https://www.nara-koseikai.or.jp/hp/>

令和8年7月



◆ 医療法人厚生会 経営理念

持続的な安定経営と発展に努め、地域の医療と介護に貢献します。

◆ 奈良厚生会病院 方針

- 1、安全で良質な医療と介護を提供します。
- 2、清潔な療養環境を提供します。

◆ 行動指針

- 1、患者さんの人格を尊重し権利を守ります。
- 2、医療従事者としての自覚と厚生会職員であることに誇りを持ちます。
- 3、相互の信頼と協調、気配りと思いやりのある態度で職務を遂行します。
- 4、自制と責任感を持ち、規律と厳しさのある職場を目指します。
- 5、常に自己研鑽に努めます。

◆ 奈良厚生会病院 患者の権利章典

私たちは、科学的で安全性の高い医療と福祉を、患者と医療従事者の『共同の営み』として継続・発展させていくために『患者の権利章典』を定めます。

◆ 患者の権利と責務

- | | |
|----------------------------------|--|
| 1、良質な医療・看護・介護を公平に受ける権利 | 5、患者自身の健康に関する情報を提供する責務 |
| 2、人格を尊重され、相互協力関係のもとでサービスを受ける権利 | 6、医療・介護上、理解できないことについて質問する責務 |
| 3、診療に関して十分な説明、情報を受け、自分の意志で選択する権利 | 7、他の患者の治療や介護及び病院職員の医療・介護提供に支障を与えないよう配慮する責務 |
| 4、プライバシーを保護される権利 | |

奈良県慢性期医療協会 第18回研究発表会 地域医療相談室

看護師 上田 裕子

看護師とソーシャルワーカーが共同で発表を行いました。地域医療相談室からは「長期患者の医療処置・平均年齢の変化について」をテーマに報告しました。



日本では団塊の世代（1947～1949年生まれ）が全員75歳以上の後期高齢者となることで、医療・介護需要が急増すると予想され、いわゆる2025年問題の影響が顕在

化する懸念があります。本発表では当院が独自に集計しているデータをもとに、この変化が当院の患者構成や処遇にどのように反映されているかを考察したものとあります。



2020年4月から2023年3月までの4年間の院内データを年度別に比較しました。その結果、当院内の高齢化率の上昇や、医療処置内容の変化が確認されました。これにより、当院が地域医療の中で担うべき役割を再確認することを目的としました。

統計解析の結果、当院に相談にえられる方の傾向が明確

になり、他施設がどのような患者を退院先として当院へ依頼しているのか、当院への具体的なニーズも可視化されました。



面談を通じて特に多かったのは、食事摂取困難により自宅や既存施設に戻れないケースであり、ADLの低下による介護困難事例が目立ちました。データの集計により、介護度が高く経口摂取が困難な患者が相当数を占めることが数値で示され、年度別の介護・医療処置の変化を提示することで問題の深刻さと傾向

が明確になったと考えます。今回の検討を踏まえ、今後も相談患者の傾向や受け入れ患者の動向を継続的に把握し、当院に対するニーズを正確に理解することが重要だと感じています。その上で、必要な地域連携の更なる推進を図り、多くの患者が安心して療養できる環境整備に取り組んでまいります。今回の発表は、地域全体の医療・介護連携を見直す契機にもなると考えております。

看護功労者

知事表彰をいただいて

看護部長 井上 ゆかり

このたび、奈良県より看護功労者知事表彰を賜り、心より御礼申し上げます。



また、平素は奈良厚生会病院の運営にご協力を賜り、ありがとうございます。

私は1991年4月1日に医療法人厚生会奈良厚生会病院へ入職して以来、今日まで勤務を続けてこられましたのも、皆さまの温かいご支援とお力添えのおかげと、深く感謝しております。

これまで病院長をはじめ諸先生方、各部署の皆さまには日々多くのご支援をいただきました。特に看護部の皆さまには、看護部の理念のもと、「安全」「安心」の看護はもとより、「心のこもった看護・介護」の提供を目指し、いつも力を貸していただき、心より感謝しております。

日々の業務の中で、多くの方に支えていただきながら学びを重ねてこられたことを、改めてありがたく感じております。

こうして振り返りますと、かけがえのない出会いとご縁に恵まれてきたことを、改めて実感しております。

これまで関わってくださったすべての皆さまに、心より感謝申し上げます。

本当にありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

情報システム室 新設

総務課 情報システム室

室長 原 大介

近年、医療機関を狙ったランサムウェア(※1)攻撃や不正アクセスなど、サイバーセキュリティ(※2)を取り巻く脅威は年々増加しています。医療現場では電子カルテをはじめとする情報システムが診療の根幹を支えており、その安全性と安定性の確保は、患者さまの生命と病院運営の双方

に直結する重要な課題となっています。

こうした状況を踏まえ、奈良厚生会病院では情報セキュリティ体制の強化と、より安全で信頼性の高い医療情報環境の構築を目的として、このたび「情報システム室」を新設いたしました。



院内のICT(※3)基盤を総合的に管理する役割を担い、日々進化する技術や脅威に対応するため、最新のセキュリティ対策の導入や運用改善に継続的に取り組んでまいります。



情報システム室では、

- ◆ 院内ネットワークの安定運用
- ◆ サイバー攻撃への対策強化
- ◆ 職員への情報リテラシー(※4)向上支援
- ◆ 新たなICT活用の推進

などを中心に、医療の質と安全性を支える基盤づくりを進めてまいります。

今後も、患者さまに安心して医療を受けていただける環境づくりの一環として、情報セキュリティとICT活用の向上に取り組んでまいります。

※1 パソコンの中のデータを勝手に使えなくなり、お金を払わないと元に戻さないと脅す悪いソフトのこと。

※2 インターネットを使うときに、コンピュータウイルスや詐欺などの危険から自分の情報や機器を守るための仕組みや対策。

※3 パソコンやスマホ、インターネットなど、情報をやり取りする技術。全

体のこと。生活や仕事で広く使われている。

※4 テレビ・新聞・ネットなどの情報を、うのみにせず正しく理解し、必要なものを選んで使う力のこと。

アルコールと健康—

筋肉・脳・内臓への影響—

奈良厚生会病院

副院長 石井 良子

運動後の一杯のビールが美味しく感じられる季節になりました。



ところで、アルコールは体にどのような影響を及ぼすのでしょうか。

まず筋肉への影響です。アルコールは筋肉でのタンパク合成を妨げ、逆に分解を進める方向に働くことが知られています。そのため、筋肉量の維持や増加を阻害する可能性があります。また、筋持久力や回復力の低下、筋肉の再生機能の障害も指摘されており、運動後の飲酒はトレーニング効果を弱める要因となります。習慣的な飲酒は疲労回復を遅らせ、結果として加齢に伴う筋力低下(サルコペニア)を早めることも懸念されています。

次に脳への影響です。アルコールは脳に直接作用し、判断力や記憶力を一時的に低下させます。さらに長期にわたる飲酒は、脳の神経細胞や血管に影響を及ぼし、認知機能の低下や認知症のリスクを高める可能性があります。近年では「少量の飲酒は健康に良い」とする従来の考え方が見直され、飲酒量は少ないほど健康リスクが低いとする研究結果が増えてきています。

アルコールの影響は内臓にも及びます。肝臓では脂肪肝や肝炎、肝硬変の原因となり、脾臓では急性・慢性脾炎を引き起こすことがあります。また、腸管のバリア機能を低下させ、免疫機能に影響を及ぼすことで感染症にかかりやすくなることも知られています。さらに、アルコールの代謝産物であるアセトアルデヒドには発がん性があり、さまざまながんのリスク増加と関連しています。



これらのリスクを減らすためには、飲酒量だけでなく飲酒の頻度を見直すことも大切です。アルコールの影響を正しく理解し、自分の体調や生活に合わせて無理のない範囲で付き合っていくことが、将来の健康を守ることに繋がります。

最近ではノンアルコール飲

料も種類が豊富になってきていますので、上手に取り入れながら、運動後や仕事後のひとときを楽しんでみてはいかがでしょうか。

看護部の新入職者研修

B棟2階 介護福祉士

十長 真鍋 翔伍

奈良厚生会病院の看護部では、入職後まず「新入職者研修」に参加することになっています。

研修は2日間にわたり、1日目は介護技術の基礎知識、2日目は感染対策・医療安全・身体拘束廃止などについて学びます。eラーニングを活用し、各階の介護福祉士や他部署の協力のもと、実践に即した内容で実施しています。

近年は外国人職員の入職が増え、従来の研修方法では十分に対応しきれない場面も見られるようになりました。日本語の理解がまだ十分でない職員にとって、講義内容をすべて把握することは容易ではありません。それでも、分からない言葉を丁寧にメモし、積極的に質問しながら学ぼう

とする姿勢が強く感じられ、私たちにとても刺激となっています。

また、文化や価値観の違いから生まれる視点は、現場に新たな気づきをもたらしてくれることもあります。



今後は、外国人職員にも理解しやすい資料の作成や、実技を用いた研修方法の導入など、より効果的な研修体制を整えていく必要があると感じています。多様な背景を持つ職員が安心して学び、成長できる環境づくりを進めながら、看護部全体の質向上につなげていきたいと考えています。

外国人介護職員紹介

特定技能

バット レカ(レカ)



私はネパールから日本に来て、介護の仕事に携わるという新しい挑戦を始めました。来日してまず感じたのは、日常の中にある文化の違いです。時間をきっちり守る習慣や、電車の中で静かに過ごす人々の姿、そして細かく分別されたゴミ捨てのルール。どれも母国とは異なり、最初は驚きの連続でしたが、日本の生活の丁寧さや秩序を感じるたびに、この国で働くことへの気持ち引き締まる思いがしました。

奈良厚生会病院に入職した頃は、仕事の流れも専門用語も分からず、不安でいっぱいでした。それでも、先輩職員の皆さんが温かく声をかけてくださり、分からないことは一つひとつ丁寧に教えてくださいました。失敗して落ち込んだときも励ましてくださり、その支えがあったからこそ、少しずつ自分の力で動けるようになったと感じています。

今では、毎日新しいことを学ぶことが楽しみになりました。難しい場面に出会うこともありますが、努力すれば必ずできるようになるという実感が、自分の成長への大きな励みになっています。

これからは、もっと責任感を持って仕事に向き合い、周囲の職員としっかり連携しながら、患者さんにも仲間にも「信頼される職員」になっていきたいと考えています。まだまだ学ぶことは多いですが、一歩ずつ成長していけるよう、これからも前向きに頑張っていきたいと思います。

どうぞよろしく願いいたします。